

令和7年度 第3回 織田廣喜美術館運営協議会 会議録

1. 会議の名称 令和7年度 第3回 織田廣喜美術館運営協議会

2. 開催日時 令和8年2月19日(木)13:30~15:05

3. 開催場所 織田廣喜美術館 市民アトリエ

4. 公開非公開の別 公開

5. 出席者 ※敬称略

(1)出席委員

会長 緒方 泉

副会長 丸山 桃子

委員 三木 一司

委員 石場 広規

委員 坂本 瑠里子

委員 川尻 司

(2)教育委員会

教育長 伊東 新治

課長 末永 康洋

課長補佐(館長) 松浦 宇哲

文化推進係主査 有江 俊哉

(3)指定管理者 (株)図書館流通センター

統括責任者 下田 富美子

サブチーフ 木村 亜沙子

6. 傍聴人数 0人

7. 議題及び審議の内容

【議題】

(1)令和7年度事業経過報告

(2)令和8年度事業計画について

(3)嘉麻市立織田廣喜美術館運営方針案について

【提出資料】

(1)令和7年度事業経過報告書(4月~1月).....資料1

(2)令和7年度利用者数等の統計資料.....資料2

(3)第6次教育アクションプラン目標値 令和7年度達成状況.....資料3

(4)令和8年度事業計画.....資料4

(5)嘉麻市立織田廣喜美術館運営方針案.....資料5

議題及び審議の内容

議題1:令和7年度事業経過報告

指定管理者および事務局による説明(資料1)

事務局による説明(資料2、3)

質疑応答

会長:資料2・3の統計数値も含めて全体を通した意見、感想をお願いします。

委員:学校の利用が多いという点で、嘉穂小学校と碓井義務教育学校の数値がアクションプランに反映されており、計画が着実に進んでいる印象を受けた。嘉麻市内には小中学校が計10校あるが、今後はこれらにどう広げていくかが課題である。これまでの議論でもあったが、いかに学校の次年度計画に広報を乗せていくかが重要である。3月、4月の早い段階で校長先生などと調整し、どのタイミングで働きかけるのが最も効果的か検討していただきたいと思う。

委員:学校の児童が関係する企画は、必然的に入館者数の増加につながるものである。他の学校にもぜひ見学に来てほしいところである。飯塚でのスケッチ大会の話題もあったが、その場で描いた作品を展示できるのは非常に優れた試みである。書道の「書き初め大会」についても、本年から公募形式ではなく「席書会」形式に変更した。176名の募集に対し166名が参加しており、例年は1割程度の欠席があることを踏まえると、今回は欠席者が非常に少なかった。また、これまでは市外の書道教室からの出品が多かったが、今回は嘉麻市内の児童生徒の参加が上回った。これは地元密着という点で大きな成果であると考ええる。一方で、子どもたちからは「サルビアパークのボードではなく、美術館の展示室に展示してほしい」という声も聞かれた。

会長:小中学校時代のミュージアム体験は、生涯にわたり記憶に残るものである。自らの作品が展示されることは、地域への帰属意識の醸成にもつながる。制作して終わりではなく、「展示し見せる」段階までを一体の体験として提供し、地域住民とつながる場とすることは、人口減少社会において極めて重要である。

委員:現在、碓井義務教育学校に勤務しており、徒歩で来館できる立地条件の利点を実感している。小学校の児童画展についても、授業時間を活用して児童を見学させた。また、嘉穂小学校が来館できている背景には、自校でスクールバスを所有しているという大きな利点がある。他校からも来館希望の声はあるものの、目的外使用の申請を2~3週間前から行う必要があるなど、移動手段の確保に課題がある。特に展覧会期間が重複する場合は、バスの確保が一層困難となる。郷土を愛する子どもたちを育成するうえで、美術館や琴平公園のような文化施設を体験させる意義は大きい。児童の作品が展示されれば保護者の来館にもつながり、入館者数の増加が期待できる。中文連についても美術部の減少が課題となっているが、授業作品の展示等を含め、より多くの児童生徒が来館できる方策を検討したい。

会長:移動手段の問題は以前からの懸案事項である。学校単独の対応に委ねるのではなく、市側で全体調整を行い、スクールバスの空き時間を有効活用するなど、美術館側から見学可能な時間枠を提示することも有効であると考ええる。校長会等を通じて、美術館が学習の一環として利用できる施設であるという共通認識を広めることが必要である。継続的に働きかけを行うことで、教育現場の理解もさらに深まるものと考ええる。

委員:学校利用の増加は評価できるが、成人の来館を促進する施策についても一層の強化が必要である。資料2の統計では、市外利用者に比べ市内利用者が少ない傾向が見られる。資料3のアクションプランの目標値として、「市内利用者の増加」といった具体的な指標を設定し、取り組むことが望ましいのではないか。

会長:成人層の来館促進には、柴田ケイコ展のように話題性の高いアーティストを企画に取り入れることが重要である。十分なりサーチを行い、地域住民にとって魅力あるコンテンツを継続的に提供する必要がある。また、美術館単体で完結させるのではなく、道の駅や周辺観光資源と連携した周遊型の文化観光の視点も重要である。観光まちづくり協会や産業振興部局と連携し、相乗効果を図る段階に来ている。

副会長:SNSの情報発信は非常に丁寧であり、来館意欲を喚起する内容となっている。一方で、貸館(市民展示)に関する投稿が少ない点が気になる。貸館利用者にとって、公式SNSで紹介されることは大きな励みとなり、美術館への愛着の醸成にもつながる。広報の一環として、市民展示の情報も積極的に発信すべきである。

事務局:ご指摘のとおり、市民自身が情報発信者となる仕組みづくりは重要である。嘉麻市民の中には、まだ美術館を訪れたことのない方も多い。市民展示の参加者が自ら美術館の魅力を発信する主体となるような環境を整備し、来館者一人ひとりが広報の担い手となる状態を目指したい。

会長:他館では、館内にQRコードを設置し、その場で感想や写真を投稿できる仕組みを導入している事例もある。来館者を単なる利用者としてではなく、広報活動の主体として巻き込むものである。子どもたちがタブレット端末を用いて発信することも可能であり、表現・展示・発信までを一体の体験として提供することで、美術館の活性化につながると考える。

議題2:令和8年度事業計画について

指定管理者および事務局による説明(資料4)

質疑応答

委員:次年度の「松本紀生写真展(アラスカ原野行)」を大いに期待している。筑豊地区PTA連合会の研修で松本氏の講演を聴講し、強い感銘を受けた。当校においても、PTAや学校運営協議会、地域住民と連携し、ライブシアターやサイン会の開催を検討したい。予算についても関係団体と連携し確保に努め、地域全体で貴重な体験を共有したいと考えている。

会長:学校、PTA、地域団体が連携して事業を実施することは極めて意義深い。松本氏の活動は、子どもたちに大きな刺激を与える絶好の機会である。

委員:児童生徒がタブレットで市内の自然を撮影し、松本氏から講評を受けるような連携も有意義であると考え。また、「昭和100年事業」については、古写真と現在の風景を対比させるフィールドワークを実施することで、地域の歴史理解を深める機会となるのではないかと考える。

会長:古写真と現風景を対比し、地域住民がガイドを務めるような取り組みは、変化と継続を学ぶ貴重な機会となる。こうした視点を校長会等で共有することで、美術館が学習課題の解決に資する施設として認識されることが期待される。次年度は開館30周年を控えており、活動を拡

充する好機である。着実に準備を進めてほしい。

議題3:嘉麻市立織田廣喜美術館運営方針案について

事務局による説明(資料5)

質疑応答

会長:方針案において、国および県の基本計画との整合性を示す際には、策定年および直近改定年を併記することで、公用文としての正確性が高まる。本案は、これまでの議論を十分に反映した内容となっている。

委員:嘉麻市が直面する人口減少の課題に対し、美術館としてどのように関与するかという方向性が明確に示されている。AIを活用した多言語対応や解説の高度化など、低コストで実施可能なデジタル活用策も検討すべきである。また、美術活動を地域産業として支援する視点も重要である。

会長:他自治体では、地域資源を活用してアーティストの定住を促進する事例もある。嘉麻市の資源をどのように提示するかが鍵となる。

委員:基本方針の「学校との連携強化」は極めて重要な方針である。部活動の地域移行が進む中、美術館が地域文化活動の拠点となることは、教育現場の課題解決にも資する。また、不登校児童への支援など、社会教育施設としての役割にも期待する。

委員:地域の指導者確保には課題があるが、障がい者アートの推進など、多様な取り組みが可能である。参加の機会を広げる工夫が重要である。

会長:以前、八女市岩戸山歴史文化交流館の書道展で、障害者施設の方々が先生に手を添えてもらいながら筆を走らせ、一緒に作品を作り上げている光景を目にした。アートは評価だけでなく、参加すること自体に大きな意義がある。多様な市民が表現できる場を提供することが、美術館の重要な役割である。

委員:社会的包摂やウェルビーイングの視点が明確に盛り込まれている点は評価できる。一方で、施設の老朽化対策など、財政的課題への対応も重要である。

会長:この運営方針は、美術館が市民にとって「なくてはならない場所」であることを内外に示すものである。子どもたちや保護者を巻き込み、施設の維持の必要性を共有する機運を高めて、学校教育と社会教育の役割を互いに理解し、受け入れ体制を構築することが重要である。

【議題の承認・閉会】

会長:資料5の運営方針案について、本日いただいた意見を踏まえつつ、承認してよろしいか。
(委員一同、挙手により承認)

会長:承認された。これを市の正式な方針として推進してほしい。

閉会

この会議録は、緒方会長に確認していただきました。